

農林水産統計調査におけるPDCAサイクル点検・評価チェックリスト

政府統計コード	00500215	
基幹・一般の別(選択記入)	基幹統計調査	
調査の名称	作物統計調査（作況調査（水稻））	
政府内における調査結果の利活用状況 ※該当するものを選択(複数選択可)	<input type="radio"/>	重要な政策の立案・実施・評価の直接の根拠資料として利用
	<input type="radio"/>	国が給付する手当や給付金の算定根拠として利用
		月例経済報告に利用
	<input type="radio"/>	基幹統計の作成に利用
	<input type="radio"/>	基幹統計以外の重要な統計の作成に利用
	<input type="radio"/>	その他（現状把握や関連の施策の立案等の参考資料として活用）
特記事項		

点検・評価事項等	調査計画との整合性				不整合が生じている場合の対応状況		
	点検・評価項目	整合／不整合 (選択記入)	「整合／不整合」欄が「不整合あり」の場合、 その概要等(選択・自由記入)		対応方法 (選択記入)	対応状況 (選択記入)	左記対応の概要(自由記入)
I 調査計画との整合性確保等の観点	1 調査の目的	整合	結果の利活用実態 (特記事項)	その他 ()			
	2 調査対象の範囲※	整合	調査対象地域 その他 () (特記事項)	調査対象産業			
	3 報告を求める個人又は法人 その他の団体(報告者)の数等※	整合	母集団情報 全数層・抽出層の設定 その他 () (特記事項)	抽出方法・抽出基準 対象数の算定			
	4 報告を求める事項及びその 基準となる期日又は期間※	整合	調査票 調査期日・期間 (特記事項)	調査事項 その他 ()			
	5 報告を求めるために用いる 方法※	整合	調査方法 民間委託の範囲 (特記事項)	調査系統・組織 その他 ()			
	6 報告を求める期間※	整合	調査実施期間(始期・終期) 調査の周期 (特記事項)	調査票の提出期限 その他 ()			
	7 集計事項※	整合	未集計 復元推計 (特記事項)	未公表 その他 ()			
	8 調査結果の公表の方法及び 期日※	整合	公表実施時期 e-statの掲載 その他 () (特記事項)	公表媒体 閲覧表			
	9 使用する統計基準	整合	独自基準の採用 その他 () (特記事項) 調査計画上、統計基準を使用することになっていない。	独自基準の説明			
	10 調査票情報の保存期間及び 保存責任者	整合	保存期間 保存方法 (特記事項)	保存責任者 その他 ()			
	11 立入検査 (基幹統計調査のみ)	整合	立入検査対象事項 (特記事項)	その他 ()			
	12 不整合は生じていないものの、 改善を検討(予定)している事項		検討(予定)している事項の有無 (選択記入)	検討(予定)している事項の概要 (自由記入)		対応方法 (選択記入)	対応状況 (選択記入)
		あり	①報告を求めるために用いる方法の変更 ②利活用を踏まえた調査期日の見直し		調査計画の変更 申請	対応中/対応予 定	①作精概況調査(7/15現在及び9/15現在の水稲単場地帯)において、実測調査に代 えて既に9/15現在の遡場地帯で導入している水稲作精予測手法を導入する。 ②調査期日及び公表日を変更する。もみ数確定期(9月下旬公表)→9/25(10月上旬 公表)、10/15現在(10月下旬公表)→10/25(11月上旬公表)

(注) 「※」を付している一般統計調査の点検項目については、調査事項の10%未満の変更等、承認を要しない「軽微な変更」の範囲や公表内容との整合性に留意して点検を実施。

Ⅱ 必要な精度の確保・向上の観点	1 調査の実施目的を確保するための精度管理の実施状況	目安としている指標の設定状況			目安としている指標の具体的推移 (自由記入。別紙も可)		
		精度管理の目安としている指標区分 ※該当するものを選択 (複数選択可)	目安としている指標の具体的な設定内容・考え方等 (自由記入。別紙も可)	目安としている指標の設定時期 (自由記入)	今回調査 (又は前回調査)	前回調査 (又は前々回調査)	前々回調査 (又は前々前回調査)
		<input type="radio"/> 達成精度(実績精度) <input type="radio"/> 回収率・回答率 <input type="radio"/> 回収標本数 <input type="radio"/> カバレッジ <input type="radio"/> その他 <input type="radio"/> 設定なし	<p>「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」においては、計画供給量（作況指数が100とした場合の生産量）と計画需要量（過去の実績から算出）との差に期首持越在庫量を加えて、期末持越在庫量を算出しているが、増減幅は±10万t以内の精度で計画が立てられている。</p> <p>このため、水稻収穫量調査における全国の収穫量は、この増減幅10万tの1/3（生産・流通・消費の三つの段階での想定される誤差）に相当する3万t以内の調査誤差を許容範囲と考え、目標精度はこれに対応したものとしており、全国の収穫量（約800～900万t）の約0.3%に相当することから、全国の調査精度は0.3%としている。</p>	平成28年産調査	0.15% (令和元年産調査)	0.17% (平成30年産調査)	0.15% (平成29年産調査)